日本食糧新聞 The Japan Food Journal 2009年(平成21年)11月11日(水曜日)

# 食育サポートへ積極取組み

## 「平成21年度食に関する一般向け啓蒙活動推進助成企画」

### 日本フードスペシャリスト協会

日本フードスペシャリスト協会の「食に関する一般向け啓蒙（けいもう）活動推進助成企画」は3年目を迎えた。フードスペシャリスト養成機関が食品、食生活その他食に関する国民一般向け啓発を目的に事業化しているもので、14校が助成を受けた。各校は1件につき20万円を限度に、必要経費の2分の1以内の助成額を受け、外部とのコラボレーション企画、校内での食育サポート、講演会の開催などが実施されている。今回は、高崎健康福祉大学の夏休みを利用した子ども料理教室の啓蒙事業、東京聖栄大学の地元商店会と自治体とで連携した食育推進について、それぞれの実施責任者に紹介してもらった。（小島麻由美）

東京聖栄大学健康栄養学部
管理栄養学科・専任講師
新村　眞由美

1、食育推進連携事業の背景

東京聖栄大学は、聖徳栄養短期大学を前身に、管理栄養士の養成校として平成17年4月に開学した。平成20年3月に第1期生の卒業生を輩出したばかりの、4年制大学としてはまだ新しい大学である。

本学は、東京都葛飾区・JR総武線新小岩駅北口から徒歩数分の所にあり、キャンパスは、新小岩北口商店会の中に点在している。

その教育方針の一つに、地域社会へ貢献することに努めることを掲げていることでもあり、今まで新小岩北口商店会との協力は積極的に行ってきている。

一方、葛飾区では平成19年6月に保健医療実態調査を実施し、その結果から平成20年食育推進計画を策定した。

この計画は、食を通して生きる力をはぐくむ「食育」の重要性を改めて認識し、食育を家庭、保育園、地域などが連携して取り組むことで「家庭力」や「地域力」を向上させて、豊かで活力ある「元気なかつしか」の実現を目指すことを目標にしている。

その実践計画の担い手として、まず白羽の矢が東京聖栄大学と新小岩北口商店会に立てられ、大学と地域で行う食育推進事業（かつしか食育サポーター事業）が始まった。

**かつしか食育サポーター事業**

2、食育サポーター事業

平成20年3月、葛飾区から食育サポーター事業について協力の打診が本学にあった。

内容は、食育に関する栄養情報を栄養メモの形で大学が作成し、その情報が地域（新小岩北口商店会）のお店で掲示されることで、地域に栄養情報を発信したいというものであった。

この事業の依頼に対して本学では、食と健康に関する専門的職業教育の実践の機会としてとらえ、全面的に協力することを快諾した。同時に葛飾区保健所が、新小岩北口商店会に協力依頼し、10店の協力が得られた。

## 授業で栄養メモを作成

### 大学・商店会・自治体が連携

大衆割烹「のぼる」でアンケート調査を実施する学生

いよいよ平成21年4月から学生による栄養情報の作成が始まることになったのである。

3、「かつしか知っ得メモ」作成

栄養メモの開始時期や配布方法など葛飾区保健所の担当者と検討し、配布の開始は平成21年6月19日（食育月間、食育の日）から、そして毎月19日に、新しい内容のものに替えて行くことになった。

早速、栄養実習を担当する教員4人が集まり、栄養メモ作成の実施に向け具体的作業手順を決めた。栄養メモ作成は、今年度の3年生。授業の一環で行う。各月のテーマは、2種類（朝ご飯と季節の食材）とし、前期授業で1年分の栄養メモを作成、配布する。後期授業で配布時にアンケートを実施し、この事業を評価することにした。また、店舗に掲示する栄養メモの形式は卓上メモとポスターの2種類を作成することになった。

さらに、栄養メモをもっと親しみやすくするため、かつしか知っで得するメモの略として「かつしか知っ得メモ」の愛称をつけることにした。

いよいよ3年生の前期授業で栄養メモ作成に取りかかることになった。

学生にとって、地域に向けての媒体作りは初めてのことであり、栄養メモのイメージはわいてこない。そこでイメージを統一するため、卓上形のフォーマットを決めた。

6月19日に向け試行錯誤を繰り返し、何とか6月分を作り上げ、前期の授業では1年分の栄養メモ案を作成することができた。現在、6月（№1号）から10月（№5号）まで作成し、各店舗で掲示されている。

さらに、7月と10月には「かつしか知っ得メモ」に対するアンケートを実施した。

第1回目、7月のアンケートの結果では、評判は店主とお客ともおおむね好評で、今回協力してよかったと回答した店舗が多かった。

10月に第2回目のアンケートを実施した。店舗からの「食育サポート店になることで店の健康に対する意識のイメージアップにつながった」「公開講座を一緒に開催するのはどうか」「学園祭に食育サポート店での飲食割引の協力」など前向きな提案も出されてきている。

そのためか10月から食育サポート店が2店舗増えることになった。学生にとっても地域の人と直接触れ合う機会として、この事業に参加したことは良いチャンスとなっている。

実際アンケートを取りに、各店舗に向かう前後での学生の表情が、びっくりするほど違ってくるのには驚いた。行く前は、上手にアンケートが取れるか不安そうであったのが、帰ってくると、"ヤッター"という達成感と自信が見えてくるのである。教師にとって、学生が目に見えて成長していくのがわかり、うれしいことである。学生には将来就職して実社会に出てから、この経験を役立たせてほしいと願っている。

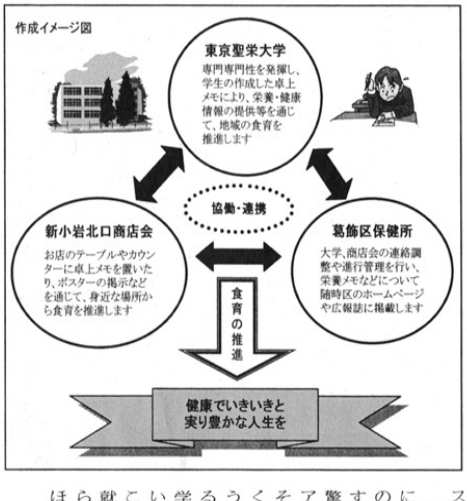
4、「かつしか知っ得メモ」の周知活用に向けて

今回葛飾区食育推進計画の一環で地域からの食育推進として、大学と地域が連携して「かつしか知っ得メモ」の栄養情報を提供することができた。出来上がったものは、学生の創意工夫が網羅され、とても見やすい栄養メモができたと自負している。

食は人が生きていくために不可欠なものである。本校も食に関する専門家養成校として、少しでも地域に貢献できることは望むところである。また学生にとっても実社会に接することで大きく成長でき、この経験は大きな自信につながると思う。そして学生が作成した「かつしか知っ得メモ」を見て、食生活に関心を持つ人が少しでも増えていくことを期待している。

しかし事業としてはまだまだ始まったばかりで、掲示されているのは葛飾区の一商店会にすぎない。今後は葛飾区全域に広げられるよう、配布方法や内容などもっと工夫しなければならないであろう。今後も地域と連携して是非続けていきたい。

最後に、「かつしか知っ得メモ」の普及に、社団法人日本フードスペシャリスト協会からの協力が得られたことを感謝している。

**かつしか知っ得メモ　とは！**

東京聖栄大学の学生が作成した手作りの栄養・健康情報です。
新小岩商店会のお店の協力のもと区民の皆さんの健康づくりにお役立てください。